

京交山岳部報

〔第1701回例会〕 辰歳シリーズ 7

龍ヶ岳 標高816.7m

日 時 9月11日(日) 集合 壬生 AM7:00
 コース 壬生-篠山-三原……龍ヶ岳(往路下山)
 担当者 大槻雅弘 (TEL 722)
 備考 申込〆切日 9月5日
 費用 2,000円
 その他 梅雨や、なんやかんやで先月やっと吉野龍門岳が登れました。楽しみにしてシリーズを待ってる人もあります。多数の方々の御参加を辰歳生れ全員集合。

〔第1702回例会〕

敬老の日登山 三岳 一等△793m

日 時 9月15日(木) 集合 壬生 厚生会館前 AM7:00
 コース 京都~老ノ坂~天引峠~エウレイ峠~三岳 往路下山
 尚、時間があれば小金塚えも行きたいと思います。参加者で相談
 担当者 山元誠一 (TEL 706) 津田 実 (789)
 備考 申込〆切日 9月12日
 費用 約500円
 その他 多紀アルプスの一等△と岩峰?小金塚え行きませんか。車でいきますから希望者は必ず〆切日迄にご連絡ください。

〔第1703回例会〕

国体コース清掃登山

日 時 9月25日(日) 集合 壬生 AM 8:00
 コース 高雄~神護寺参道周辺-高山寺参道周辺-谷山林道周辺他

担 当 者 岡田茂久 (TEL 392-2070)
備 考 申込〆切日 9月24日
その他 弁当、帽子、手袋、雨具等を各自ご用意下さい。

〔第1704回例会〕

故 宮後正樹氏(七回忌)を偲んで

あゝ薬師岳

日 時 10月1日(土)夜~10月3日(月) 集合 参加者と打合
コ ー ス 京都一名神高速道路・北陸自動車道-富山-有峰林道-折立……太郎平
小屋(泊)……薬師岳……往路下山
担 当 者 錦林 田中忠久 (TEL 885, 0774-23-2427)
備 考 申込〆切日 9月26日
費 用 約20,000円

追加例会

〔第1705回例会〕 緑陰歩き

ニ ツ 坂 Ca 850m 大原 2.5万分の1地図

日 時 9月4日(日) 集合 叡電出町柳 9:00発鞍馬行
コ ー ス 鞍馬駅-扶桑橋-百井谷右岸尾根-ニツ坂へ縦走-花背峠:15:05
又は16:15発京都バスにて下山
担 当 者 伊藤潤治
備 考 ニツ坂は今西錦司先生の「千五百山のしおり、1986」によりました。
雨天中止

〔第1706回例会〕 古典(日本山嶽誌)を歩く

笠 置 山 奈良 5万分の1地図

日 時 9月11日(日) 集合 京都駅 奈良線7:47発
コ ー ス 木津のりかえ笠置駅下車 笠置山ハイキングコース 4.6km史跡めぐり
担 当 者 伊藤潤治
備 考 雨天中止

— 今月の集会

インドア「山の写真」 沢井 佳三

9月12日(月) PM6:30 厚生会館4F大教室

— 企画運営委員会

9月19日(月) PM6:00 厚生会館4F大教室



お化け

岡田茂久

世間のオカルトブームはまだまだ根強い人気があるようで、夏になるとテレビでも怪談物が深夜放映されたり、芸能人がさも実話のように怪異経験を語っている。先日覗いたレンタルビデオ屋では特別コーナーまで設けられて若い子が群がっていた。

どういうわけか私も昔からお化け大好き人間であり、フランス文学の権威でもあった某博士が主宰されていた“お化けを守る会”の会員でもあった。いつごろのことだったか嵯峨の二尊院で京都集會が開かれ、丸山明弘などがやってきて何とも陰鬱な雰囲気の中で怪異話を聞かされたり、平家の落人の霊を呼ぶという石笛が吹かれる中、「霊があなたの肩にのって来ましただんだん肩が重くなってきてでしょう」と言われたが、私には場違いに明るい石笛の音が印象的であっただけでなんにも起こらなかった。そういう怪異現象を体験するには特殊な素質が必要らしい。

しかし“お化けを守る会”にはどうやら化かされたみたいで、何千円かの会費を払っただけで近頃は音沙汰もなく、手元に可愛い“ひと魂”を形どった小さな会員バッヂが残っているだけである。お化けのことであるしゃれとおもえば腹もたたない。

常々お化けにはぜひ一度会ってみたいと思っているが、私にはそんな素質や能力はぜんぜんないようである。ときたま人には山に行っているといろんな怖い現象に合うでしょうといわれるが、とんとそんな経験がない。

幽霊は特定の人に恨み事を言うために、どこにでもでてくるのが決まりだったそうで、お化けはある特定の場所に行かねば出くわさないとと言われてきた。ところが山でも遭難者等の幽霊は、その場所に行った恨みも縁もゆかりもない人の前にでもでてくるようだ。遭難は自分の責任で人を恨むことではない。幽霊はより高尚なもので、お化けなみに誰にでも出てきてもらっては困るのだ。私のひかれるのはもっと庶民的なお化けの世界で“水木シゲル”風のロマンのある存在のものである。

かってお化けが生きてきたのは、古来から日本全国に繁茂していた広(照)葉樹林の下の薄暗りであった。しかし、今では山奥まで林道が開通し、広葉樹の森林は切り払われて明るい針葉樹の植林となってしまう、お化けの住む処はだんだんなくなってしまった。山でも人間くさい亡霊しかでてこない。残念なことである。

先日来、仏教大学の“妖怪学への招待”という講座を聴講しているが、失われつつあるものへの郷愁か、若い女の子も結構多くてなかなか楽しいものである。

龍 門 岳

三 橋 勉

3度目の正直でやっとこさ一等三角点に登ってきた。

6時半に八条口を出発し、8時すぎに桜井の下居(おりい)に車を置き、音羽観音めざして参道を登って行く。真夏の暑さで調子が出なかったが、途中の地藏さんで休んでから元気になった。石段を登った所が観音寺であった。こゝで今日のコースの状況を聞くと大峠までは道がはっきりしているが、そこから先が伐採してあり少し道が、不明瞭な所があるが気をつけて行きなさい。と教えていただき水を補給して出発する。急なジグザクの坂道を20分程登っていくと尾根道となり、昼なお暗い森林の中を進むと丁字路に突き当たったところに音羽山の案内板があった。付近の笹原を足で払うとヤグラの丸太が出てきたが、かんじんの三角点のみあたらなかった。

ここから急降下となり登り返してやっとこさで経ヶ塚に到着。大きな石塔があり、こちらの方が山頂らしい感じであった。

経ヶ塚山南面の下りはまたもや急降下となり、向い側にトンガリ帽子のこんもりと茂った熊ヶ岳が現われ、あの上まで登るのかと思っただが、キョリがあり、ゆっくりした登りなので助かった。

熊ヶ岳は笹原で、そこからくだって少し登り返すと反射板があり、四等三角点があった。少し右へくだって行くと谷を隔てた向い側に大きなボリュウムの龍門岳が見えたがまだまだ遠い道のりであった。

途中、山仕事のおじいさんに経ヶ塚山の事を尋ねると、昔、談山神社のある多武峰から、ソガのイルカの首が高見山まで飛んだが、その鬼門にあたる所に経文をうずめた(うめた)という伝説があると話してくださった。そして自分は大正生れの辰年で、兵隊さんの認識票に近衛兵であったという星のマークに月桂樹の葉をあしらった札を見せてもらった。そこから数分で大峠に到着した。

お地藏さんの横に女坂伝称地と記した石碑がありその右後方から山道が続いていた。2つ目の伐採してあるピークで昼食とする。

最近の山行は贅沢になり、この暑い山頂で、大概リーダー持参の冷やしソーメンをいただけるとは何と幸せな事か、今までの苦しい登りもどこかえぶっ飛んでしまった。

昼食後、3分で龍在峠への分岐に到着した。そこから左の道を行くと、今日始めてアベックの登山者に出合った。我々と逆コースを行くという。(これからのピークの登り降りが大変だろう。)道は右へまわり込みピークを巻くように続いている。トラバース道をすぎるとやがて三津峠に到着した。三津の反対方向の道はあまり歩かれていないようだ。ゆるい登りが続いて東へ巻くように登っていくと、おやしろの裏側に出た。こゝが一等三角点のある龍門岳であった。

感激の万才三唱となる。北西側の展望がよく、はるか被方に反射板のある四等三角点、912mの熊ヶ岳、そしてその奥に経ヶ塚山や音羽山が見えた。はるばるピークを越えてきたという満足感

にひとりながら、津田さんのギョウザをいただき、ビールでカンバイする。4名で217歳(平均年歳53才)の登頂であった。

下山は南側のルートを取るが、またもや急な下りである。先日の四国の山行きで痛めた右ヒザがこたえる。どんどん高度をさげて450m程くだると谷に出た。谷の脇道を進むとやがて龍門寺跡にきたが龍門の滝がわからなかった。夕立ちとなり暑さの中なので、頂度ぬれながら涼む気持で歩く。川になった道に沢ガニが現われた。

やがて雨もやみ、龍門小学校の近くで道路へ出て、車をヒッチしようと思ったが、なかなか止まってくれない。4人もいとだめなので2人だけ横道のたんぼにかくれる。やがて峠の手前まで荷物をとりに行くという車にのせてもらって、わざわざ峠の向う側の我々の車のある所まで送ってもらった。本当に助かった。

同行者 大槻雅弘、津田 実、横井襄二、三橋 勉

[コースタイム]

八条口6:32-桜井下居8:10~20……音羽観音9:10~23……音羽山9:55~10:05……経ヶ塚山10:18~32……熊ヶ岳10:56~11:10……反射板四等△11:21~25……大峠11:40……ピーク(昼食)11:55~12:30……分岐12:33~35……三津峠12:50……龍門岳13:22~14:15……谷出合14:45……龍門寺跡15:26……龍門小学校16:03……西谷16:27……下居16:40~58……京都19:05

鳳凰三山から仙丈岳へ

錦林 竹村 芳 廣

今回の登山は、烏丸の戸倉氏と、山本俊氏ら三名で行くことになった。

鳳凰三山は昨年、甲斐駒から鳳凰三山へと計画を立てていたが、天候の加減で断念したので、今年は是非登ろうと計画を立てた。

7月17日(日)AM5:00僕車で烏丸を出発。名神高速、中央自動車道を使って葦崎でおろる。夜叉神峠には、11:09分つく、身支度をしていよいよ登山開始。11:35分、最初から険しい登りで樹林帯の中を歩いていく。夜叉神峠頂上小屋に、12:23分着、腹ごしらえをして出発する。南小屋小屋の間には、杖立峠と苅平峠が有る。峠ごとに休憩をすることにした。急登の連続で、山本俊氏がかなり辛そう。(山本氏は本格的な登山は、今回で二回目で昨年烏帽子から双六への縦走では、トレーニング不足を反省して、今年から五の線公休を利用して阿多古山へ歩荷、水10Kに諸々合わせて15Kを担いでのトレーニングをもう30数回行って来たそうである。)三人の荷物を持ち比べると、山本氏の荷物が一番重そう。杖立峠手前で、カップを着た女性二人

と擦れ違ふ。上は小雨でカッパが入るとのこと。杖立峠を過ぎた辺りから雨が降って来ので、傘を被る事にした。毎平で、山本氏が持って来たフルーツの缶詰で喉を潤す。南御室小屋に16:15分着く。かなり雨が降って来た。小屋の泊まりは僕等三名だけで、予約して有った客は、未だ来ないと言う。6時に夕食を終えて、早くも寝ることにした。外はまだ雨が降っている。夜中2時頃トイレの為外に出ると、嘘の用に星空が映えている。

朝4時頃、山本氏が起こしてくれた。外には二張りのテントが有る。朝食を弁当に替えて貰い5:03分小屋を出る。学生風二人がテントを片付けて先に登り出した。最初から急登で有る、山本氏を見ると昨日と違ふ、昨日は両腕を後ろに回して重いザックを支えていたのが、今朝はリラックスして登っている。30数回の歩荷の成果だと感心をする。薬師岳7:06分着、此処までは、アップダウンがかなり有った。途中から青空が広がってきて、富士山が綺麗な稜線を見せている。観音岳7:45分着、アカヌケ沢の頭8:43分着、先に登り出した学生風が休憩をしている。もう一つザックが有る、この持ち主は地藏岳(オベリスク)へ往復をして帰って来た。話を聞くと広島から来、黒戸尾根から甲斐駒を経てここまで縦走をして来たと言う。夜叉神峠頂上小屋へ行くとのこと。ここで大休止をする事にした。西の方を見ると、北岳の雄姿がみえる、北の方は、甲斐駒の雄姿もみえる。高嶺付近でわ、遅咲きのツヤクナゲが一輪咲いている。殆どがまだ蕾だ。白鳳峠に11:09分着、此処から広河原へ一旦下りる事にした。

広河原には13:10分着、ここからは芦安村営バス14:10分発に乗って、南アルプス林道を北沢峠へ移動した。北沢峠長衛荘に入る、次々と仙丈岳から下りて来た客が入って来る。二三人の婦人が、心配そうにして入る、一緒に登った五六人がまだ仙丈から下りて来ないと言。暫くしてその五六人の婦人が無事帰ってきた、今日は10数時間行動をしたとのこと。また外にはかなり激しく雨が降って来ている。この分だと明日の行動を断念して、何処かの温泉で足洗いをしようと言ながら床に入る。

翌朝曇っているが雨が降っていないので、予定どおり仙丈岳へ登る事にした。必要な荷物を、ザック二つに纏める、4:43分出発する。最初からぐんぐん高度を上げている、よいペースで登っている。予定より早く、大滝ノ頭に着く6:13分、まだぐんぐん高度を上げている。やっと小仙丈岳に着く7:05分此処から暫くの間横巻である。ガスの中から急登が表れる、最後のヒネリと気を引き締める。仙丈の肩に出ると、三つのピークが見える、奥のピークに独標が見えたのでそこに急ぐ、やっと仙丈岳に立つ、8:10分記念撮影をおえ、藪沢カールを回り馬ノ背ヒュッテから北沢峠へと下山する。11:09分着、北沢峠には11:15分発広河原行村営バスが止まっており、此のバスに乗ることにした。予定では、13:10分の村営バスで広河原へ行くつもりであったが、大幅に時間が短縮された。夜叉神峠までは、乗合タクシーに乗った。時間が有るので、上諏訪温泉で足洗いをする事になった。

参加者 烏丸 戸倉庄之助、山本俊夫、 錦林 竹村芳廣

飯 綱 山

1917.4m

梅津 吉 田 武

燕温泉を後にして関見トンネルを抜けると赤倉温泉スキー場の丸山コースゲレンデに出る。新緑がまぶしく気持ちの良い高原である。昨日、登るのを断念した妙高山が後方にそびえていた。ルート18号を信濃町より戸隠えルートをとった。黒姫山と飯綱山の間をぬって道路は戸隠奥社前そして中社に続いている。中社の鳥居の前を横切って少し行くと忍者村広場がある。忍者村を通り過ぎて林道をもう少し行くと飯綱山登山口と書いた道標があったのでここに車を置いて登った。唐松のゆるやかな登りで30分程登ると唐松もなくなり、展望が良くなって来た。やがて平坦になってふり返えれば戸隠山と、その向こうには後立山連峰がそびえている。左より鹿島槍、五竜岳、白馬、そして主峰、白馬岳が残雪をいただいていた。やがて下方からガスがわいて来たので天候が悪くなりそうなので先を急いだ。40分程登ると飯綱大権現をまつる祠についた、三角点の手前のピークで10人程のギャルが食事をしていたが我々は先を急いだ。10分程で三角点ピークについた、ガスがだいぶ出て来たので景色は見えなくなり標石のかけた三角点にタッチして早々に下山する事にした。戸隠中社まで1時間20分程かゝったが比較的かんたんに登れた。戸隠そばを食べて今日の宿舎に行った。戸隠バードラインを走り長野市内を抜けて須坂市内からルート406号を菅平方面に走り途中の仙仁温泉に入った。

再度北海道の山旅

坂 井 久 光

7/20一等三角点研究会員山形のキャンピングカーで出発。敦賀港からフェリーで小樽へ。22日早朝余市町の天狗岳872mを目指し、梅川の果樹園の林道へ行き、桜挑栽培家で道を尋ねて林道を奥に向ったが、少し先で廃道となっており引返した。それで倶知安へ走り、友人の船場を訪れ、毘布岳の林道事情を聞き、道庁支所へ行きゲートの鍵を借りて出発。国道の福井から左折名無川の樋の沢林道の奥の林道支線分岐で駐車して、沢へ下り沢を遡行した。小沢なので滝もないが、右岸左岸と渡って滑る溪流は楽でない。漸く源頭に達したが、山頂は急峻で道とてなく、踏跡を辿って急崖を樹や岩を掴んで攀ち登った。ハイ松の茂る尾根に直登して山頂三角点に着き万才三唱。眼下は岩壁で視野に笹の広大な尾根が続く。展望360°で後方羊蹄山始めニセコ山群、遠くユーラップ山も見えた。少時休んで往路下山。

倶知安に戻り船場に鍵を依頼して倶知安温泉羊蹄閣へ行き入浴してその前の空地で宿泊。23日蘭越を通り名駒から三笠へ行き、農家で幌別岳の登路を聞いたが今や廃道でなく、寿都の母衣月山へ島牧への車道から林道で行けると前回聞いたので向ったがゲートで行止となり3K余りなので歩

いたが、登路が判らず暇をくい笹の茂る廃林道を登って再度の登頂後、往路下山して車で島牧經由千走川林道を通り狩場山登山口で駐車。遅いが軽装で日没迄にピストンする。途中一組の下山者と会ったが、約2時間で登頂。二人で万才三唱して下山。車で泊温泉に行き入浴後附近の養鱒場で一泊。24日露天風呂の少し先の登山口で駐車。大平山を往復する。地図にはないが、道があり2・3組の登山者があった。この山は石灰岩の急峻な山で大平エーデルワイス始め山草の豊庫で有名。山頂の草原で後方羊蹄山を眺め、ユーラップ山を見て一休みして下山。泊温泉で汗を流してから、日本海岸を南下瀬棚を通り余市町のスキー場の鳥賊月山の一等を訪れ、檜山へ戻って国道を南下二股で左折、左股から太櫛川沿いに林道をつめ終点で駐車宿泊。25日臼別岳への直登コースを探したが踏跡もなく、下流の一般登山口へバックして駐車。長い尾根道のコースを登って臼別岳三等へ登り、一旦コルへ下って急坂を登ってユーラップ山頂へ。ハイ松の道に熊の糞があった。展望抜群小休んで下山。

今金町の温泉(加熱)で入浴後、中里から志文内川林道の奥で一泊。ルコツ岳を26日朝登路を調べたが、道や踏跡もなく笹のブツツで霧がかかり断念して一路。洞爺湖畔の幌内山へ長万部で一休して豊浦川から洞爺ゴルフ場へ行き、再度場内の三角点へ山形を案内した。

眼下に洞爺湖や中の島、展望絶佳で少時展望を楽み下山後、洞爺温泉のプリンスホテルへ前回知合った支配人の伊藤氏を訪れた。面接で忙しい中で、喜んで歓迎してくれ、昼食を御馳走になりすゝめられて二人で一泊することにした。湖に面した部屋で入浴後くつろいで湖の風景を眺め夕食は特別メニューの差入があり再度部屋に来てビールを頂き、その後の動静や今後の計画や好きな将棋の話に時を過ごし、窓から湖上に打上の花灯を眺めて、豪華な一夜を楽しんだ。

27日室蘭經由大平洋沿いに静内へ行き営林署を訪れ管内の事情やペテガリ岳の入山許可を受けてペラリ山へ向った。奥迄林道が入り終点手前で駐車して林道の峠附近より伐採跡の植林地を登り踏跡を辿って山頂の低い笹原に登った。ガスがかゝって一帯を二人で探したが、三角点は見付からずあきらめて下山。アポイ岳の山麓のキャンプ場へ行き一泊。28日雨だったが、雨衣つけて良い道を登った。此の山は斑駁岩から出来ており所々風化して蛇紋岩になって露出しており、その為、特異な草木が多く、アポイキンバイ・アポイアツマギク等始め多くの高山植物があり保護されている。山頂は雨の為展望は空しかった。往路下山して五合目の休憩小屋で休んで下山。車を静内に向けて走り、静内川の上流へ林道をひた走り、夕刻ペテガリ山荘に到着。

手前の高見はダムの底に沈んでいた。山荘には学生や登山者がおり、学生は東京から沢歩きをしているとか。翌29日長い尾根の登り下りの末やっと山頂へ。先客2名がおり水戸からとか、今朝山麓のコル(天狗のコル)で天幕を張っていたら熊が10m先に出て来たがじっと見ていたら去って行ったとか。展望宏大、カムエクが見え、近くに神威岳も見えた。古くから知られた北国の名峰である。ペテガリ山二等三角点で万才三唱して下山。

その日は三石町の温泉で入浴後キャンプ場で宿泊。30日広尾へ行き、楽古岳への林道を走り終点で駐車。川を遡行して2、3度川を渡って登山口へ。先客ありで大キスが置いてあった。急坂が続くが、樹林帯を抜けるとハイ松帯の岩尾根となり、間もなく山頂へ。好天で展望広大なれど霧が

出て遠くは見え、少時休んで下山。中札内村の紅露宅を訪れ、カムエク登山の便宜を乞うた。夕刻、公園で泊り長知木宅で風呂をうけた。山形さんは疲れたので明日帯広で別れて温泉へ行くと云って、31日帯広で別れ、会員の集合を待ったが一人も現れず、紅露さんの世話になり、また中札内に行き、不用品を家に送って身軽になり、糖平温泉に行き一泊。8/1一人で民宿からウペペサンケ山を往復する。登り口が判らず探すのに時がかゝり、登頂15時頃で、夕刻日暮れに帰れた。8/2三股行一番バスで三股へ。長い林道を歩いていると車に拾われ登山口の近く迄行ける、営林署の現場へ行く車で、ブルで新しく登山道を林道工事している処迄乗せて頂き、将来水揚げつける予定とか。

長い山麓の緩い登りの末やっと水場へ、冷い水が甘い。ジグザクの急坂を登って十石峠へ、三つ程ピークを越え、茂ったハイ松の切開を登り、急登して山頂へ。

展望雄大で一人で万才三唱。帰りを忙いだ。現場はすでに車はなく、林道を歩いていると客を送ったタクシー社のマイクロバスが来て上土幌迄送ってくれ、夕食を採ってバスで帯広へ。汽車はなく、駅前近くのビジネスホテルで一泊。翌8/3富良野へ行き一泊して、8/4富良野西岳をピストンする。ヤセ尾根の岩峰で展望絶佳、山麓ではプリンスホテルが建設中、スキー場が拡大されていた。翌8/5雨なので芦別岳をあきらめ帯広へ出て、中札内へ。

役場で知本さんに会い旅館で一泊、8/6、15時中札内役場に集り十勝山岳連盟主催のカムエク登山大会に同行する。私と三人の会員がテントや食糧シュラフを持って七の沢迄行き一泊した。翌8/7、3時半起床4:10出発で札内川を遡行。八の沢へ、八の沢は2、3のテントがあり賑やかだった。三股迄、八の沢を遡行し、一休してよいよ急崖を登り熊の住むカールへ登った。カールには遭難学生の碑があった。山頂へ急坂を大きくカーブして登る。高山植物が咲乱れていた。稜線に出て、ハイ松と露岩の瘦尾根を登って山頂へ。念願の日高の秘峰へ無事到着。一同万才三唱、緩ゆっくり休んで下山。カールから下山中、先頭が道を失い、急崖のトラバースを二度するはめとなり、やっと下山路を見付けて無事下山するも遅くなり七の沢で十勝岳連会長等が心配して待っておられた。下山は地下足袋の為、足指が痛く早く歩けず痛くて困った。車に乗り漸く安心。中札内で夕食となり一同と別れて礼をのべ、帯広で夜行に乗り、8/8札幌から小樽へ行きフェリーニューユーカリ号で舞鶴經由帰京した。

例会報告

例会№	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記 事
1695	比良貫井谷	7月17日		吉田 武		中止しました。
1696	辰歳シリーズ 龍門岳	8月 7日		大槻 雅弘		別稿詳報

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記 事
南アルプス 赤石岳	7月29日) 8月 1日	晴	井戸 澄夫 竹田 勉 上村 次男	小浜から大聖寺平を経て赤石岳へ。途中、広河原小屋と荒川小屋で泊。小浜川は水量多く、往路は巻き道を通ったが、復路は沢下りで、腰まで冷水につかった。

雑 報

* 8月の集会

10日 場所 厚生会館4F大教室

出席者(本局)大槻、三橋、古市、和田、大木、井戸

(高速)岡田、大倉(梅津)吉田

(OB)坂井

以上 10名

○インドア 「岩登り技術と用具」 大倉寛治郎

○例会報告、第2回夏山キャンプ大会、国体会場一斉清掃について

* 部費受領

(OB)大伴 初代

(本局)三浦 貞義

* 他山岳会の会報(受贈分)

7月号 青嶺、わっぱ(5,6,7月号)

8月号 北山、京都山岳、近畿山行、比良山岳、山友、趣味の登山

京都国体山岳競技会場一斉清掃について、

お 願 い

いよいよ、京都国体も間近に迫り山岳競技も府下各所の山々で広範囲に実施されます。そこで、競技会場周辺を少しでも綺麗にして全国の各都道府県の代表選手の方々に気持ちよく競技して戴こうと、山岳競技会場周辺の一斉清掃が山岳連盟（自然保護委員会）で企画され、京交も例会として全面的に取組み協力することになりました。

部員の皆様の御協力をよろしくお願い致します。

記

日 時 9月25日(日) AM 8:00
(雨天の場合は、10月 2日(日) AM 8:00)

集 合 場 所 壬 生 厚 生 会 館 前

清 掃 個 所 高 雄 地 区 神 護 寺 周 辺
(京交他担当) 高 山 寺 周 辺
谷 山 林 道 周 辺 他

最 少 必 要 人 員 約 3 0 名

参加くださる方は、 弁 当、 帽 子、 手 袋、 雨 具 等 を
各 自、 ご 用 意 く だ さ い。

(ゴミ袋、背負子、スコップ等共同装備は、クラブで用意します。)

担 当 京 交 山 岳 部 長 岡 田 茂 久
京 交 選 出 岳 連 自 然 保 護 委 員
近 藤 薫 坂 井 久 光
武 田 喜 久 郎